

金沢城ゆかりの神社

塩谷 忠士

近年は休日に神社巡りを楽しんでいる。今回は、金沢城や藩主前田家にゆかりの神社という視点で、県内神社誌などの由緒から一覽してみた。

一、金沢城曲輪内に鎮座する神社

一―一、尾山神社 金沢市尾山町二―一 旧別格官幣社

主祭神…前田利家公、正室松子命

明治六年（一八七三）旧金谷出丸に卯辰山麓の卯辰八幡宮から前田利家公を遷座する。

平成十年（一九九八）に利家公の正室お松の方を合祀する。また、神苑は旧金谷御殿の庭園を改修した地泉廻遊式庭園となっている。

一―二、金沢神社 金沢市兼六町一―三 旧郷社

主祭神…菅原道真公、白蛇龍神

寛政六年（一七九四）、十一代治脩公が建てた藩校明倫堂の鎮守として金城靈澤のほとりに創建される。前年田井天神（椿原天満宮）が学校敷地内に天満宮勧請を命ぜられる。文政三年（一八二〇）十二代斉広公が建てた竹沢御殿の鎮守と定め、災難除けの神（白蛇龍神）、商売繁盛の神（稻荷大神）、交通安全の神（琴平大神）をあわせ祀る。

二、金沢城曲輪内に鎮座していた神社

二一、尾崎神社 金沢市丸の内五一五 旧郷社

主祭神…天照大神、徳川家康公、前田利常公

寛永十七年（一六四〇）、四代光高公が東照権現勧請の許可を幕府に得て、金沢城北の丸に社殿造営を初め、同二十年（一六四三）に上野寛永寺から勧請し落成する。明治七年（一八七四）に天照大神と前田利常公を合祀し、同十一年（一八七八）現在地に移転する。

二二、松尾神社 金沢市鷺町二八 旧無格社

主祭神…大山咋神、素戔鳴尊、菅原道真公

現在の松尾神社は明治元年（一八六八）に卯辰祇園社と酒神松尾社の二社が合併して創建される。酒神松尾社は五代綱紀公が元禄十二年（一六九九）金沢城二の丸の松尾社を当地に遷座し、加越能三州の酒業守護神として祀る。その松尾社は、元は織田信長公が安土城内に奉斎したのが創祀とされ、天正三年（一五七五）藩祖利家公が越前府中入封の頃信長公より賜り、越前府中城、七尾城、金沢城と城内に祀られていたと伝えられる。

二三、卯辰神社 金沢市東御影町九三 旧村社

主祭神…菅原道真公、大国主命、少名彦名命

慶応三年（一八六七）に十四代慶寧公の卯辰山開拓により建てられた養生所の守護神として創建され、竹沢御殿の天満宮を移転する。

三、金沢城の建築物・遺物が残る神社

三一、尾山神社 金沢市尾山町一―一 旧別格官幣社

東神門は金沢城二の丸にあつた唐門で、明治三年（一八七〇）以来旧卯辰山招魂社前にあつたものを、昭和三十八年（一九六三）に現在地に移築する。（参考、写真1）

三二、中村神社 金沢市中村町一六―一 旧郷社

主祭神…武甕槌命、経津主命、天児屋根命、比咩大神

藩政期は本尊に薬師如来を安置し、後に春日明神の神霊を迎えた神仏混淆の神社であつた。拝殿はもと二の丸御殿能舞台で、旧卯辰山招魂社の拝殿を移築した。（参考、写真1）

三三、長田菅原神社 金沢市長田一丁目五―三 旧村社

主祭神…菅原道真公

長和元年（一〇一二）一國一社の天満宮として創建したと伝えられる。明治二年（一八六九）旧金沢東照宮の護摩堂（本地堂）を移築して拝殿とする。平成三年（一九九一）補修作業により、鮮やかな朱塗りの社殿が蘇る。

三四、奥野八幡神社 能美市寺井一五乙 旧村社

主祭神…応神天皇、神功皇后、比咩大神、少彦名神

南朝方の結城宗広の守護神を授かった佐次右衛門が寺井に移住し、寺井の奥城に奥乃社を奉祀したのが創祀と伝わる。

社宝七重の塔は、明治五年（一八七二）一般に払い下げられ、寺井村の綿谷平蔵が買収

し当宮に奉納された。その由来について、①朝鮮出兵の際、加藤清正（別説として前田の臣、某）が持ち帰り、のちに豊臣秀吉公が利家公に贈った。②三代利常公が造らせ、元は金沢城の庭園にあつた十三重塔の一部を、小松城に隠居するにあたり分けて持参した。③三代利常公が小松城で十三重塔として造らせ、のちに兼六園の一部が移された。と近年新説が発表されているが、いずれも兼六園の「海石塔」と一体または二基一対とする。

四、金沢城を鎮護する神社

四一、小松天満宮 小松市天神町一 旧県社

主祭神…菅原道真公、前田利常公

三代利常公が小松城に隠居後の明暦三年（一六五七）、小松城の鬼門方角に崇敬する北野天神を奉斎した。本殿は小松城本丸と金沢城本丸の一直線上にあり、金沢城の裏鬼門を守護していると言われる。平成二九年、梯川河川改修により境内が往時の浮島に戻された。

四二、菟橋神社 小松市浜田町イ二三三甲 旧県社

主祭神…菟橋大神、建御名方命、八坂刀売命

延長五年（六九七）の創祀と伝えられる。三代利常公が小松城に隠居するに際し、小松城内の菟橋御門内に奉遷して小松・金沢両城の守護神とされた。慶安四年（一六五一）浜田庄の神明宮の社地を拡張し、現在地に遷座する。

四三、宇多須神社 金沢市東山一丁目三〇一八 旧県社

主祭神…高皇産靈神

養老二年（七一八）多聞天社と称し、佐和田川（現在の浅野川）付近から出た裏面に卯と辰の模様がある古鏡を卯辰神として祀ったのが創祀とされる。藩政期に、公には八幡大神を祀ると揚言し卯辰八幡宮と称して、尾山神社に遷座される前の藩祖利家公を祀っていた。金沢城の鬼門にあたる当地に守護神として藩祖を祀ったと考えられ、毎年二月三日の節分祭に鬼門札が頒布されている。

四一四、椿原天満宮 金沢市天神町一―一―三 旧県社

主祭神…菅原道真公

永仁五年（一二九七）、富樫義親が京都北野天満宮より尻垂坂谷上丹波屋敷と称する山崎（現在の兼六園山崎山付近）に勧請する。観応年間（一三五〇―一三五二）一向衆の道場を建てる敷地となり、金浦郷田井村（現在の小将町）に遷座され、金浦郷の産土神となる。慶長年間（一五九六―一六一五）に現在地に移転し、前田家の祈禱所として城郭の鎮守と定めた。

五、金沢城の関連施設に建つ神社

五一一、八幡神社 金沢市土清水町六―八〇 旧村社

主祭神…応神天皇

創祀は天正年間（一五七三―一五九三）と伝えられる。万治元年（一六五八）八月、五

代綱紀公が塩硝調合所（土清水塩硝蔵）をこの地に移してより崇敬篤く、利常公までの前田家三代を祀っていた。尾山神社の創建後、前田家三代は尾山神社に合祀される。

五二二、横川日吉神社 金沢市横川町一七四 旧無格社

主祭神・大山咋神

横川町出村の産土神。長享二年（一四八八）高階新左エ門尉が高尾城攻撃の戦陣を張つた場所と伝える。歴代藩主が当所で鷹狩りを行ったと伝わる。手水舎は本多家屋敷の一部を移した部材を使用している。（もとは拝殿に使用されていた。参考、写真2）

六、金沢城行事に関係する神社

六一一、子安神社 金沢市下安原町東四六七 旧村社

主祭神・豊玉姫神、武御名方神、誉田別神

延暦年間（七八二―八〇六）の創建と伝える。三代利常公の崇敬篤く、代々出産毎に当宮に祈願したと伝わる。

六一二、神明宮 金沢市野町二丁目一八 旧県社

主祭神・天照皇大神、豊受姫大神

古来祓宮と呼ばれ、春秋の祭礼毎に供える餅を御幣形に串刺しにしたものを飾って家守とし、聖火にあぶつたものを食して厄除する信仰として、二代利長公が自ら範を示したことを起源とする「あぶりもち神事」が有名。毎年正月、城内諸門等に掛けた注連縄を正月

一五日に当宮社前で寺社奉行立会いのもと焼かれるのが慣習で、金沢の左義長の元祖と伝わる。

六一三、豊国神社 金沢市東御影町九三 旧郷社

主祭神・豊臣秀吉公、前田利常公

元和二年（一六一六）卯辰観音山に山王社として創祀され、秘かに豊臣秀吉公を祀った。祭礼に藩主が神事能を献じ、観音院の御神事能と呼ばれた。明治四十年（一九〇七）現在地に遷座する。

七、おわりに

金沢城や藩主前田家に関係する神社を調べてみると、あまり知られていない神社もあって興味が湧いた。中には金沢神社と卯辰神社が同じく竹沢御殿の天満宮を創祀とし、疑問の残る由緒も混ざるが、遷座や分霊が多いのは神社の特徴として由緒のままに記した。今回数宮に新たな知見を加えたが、新たな発見があれば又の機会に発表したいと思います。

参考資料

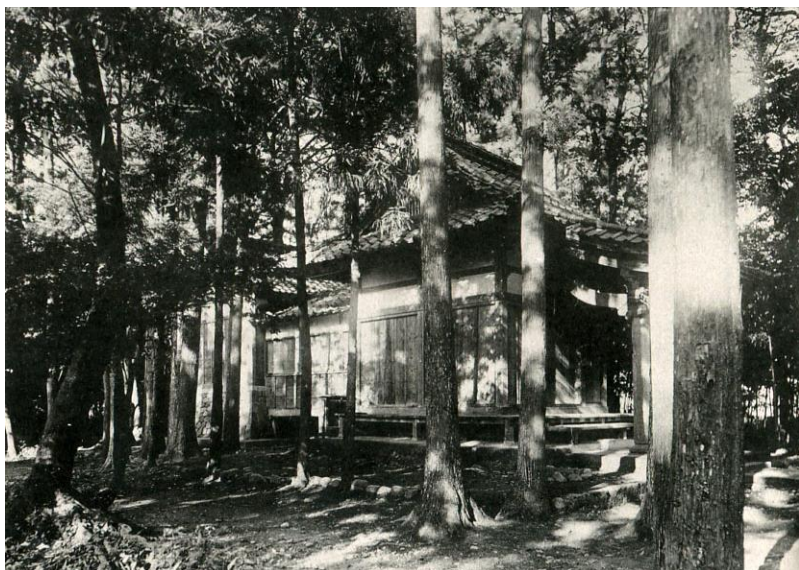
石川県神社誌（一九七六年）、金沢市内神社写真帖（一九三二年）、金沢市神社大観（一九四二年）、石川県神社庁ホームページ、尾山神社・金沢神社・小松天満宮・神明宮の各ホームページ、卯辰山開拓録（一八六九年）、現地由緒他

写真1 卯辰山招魂社



金沢市内神社写真帖（昭和7年刊）より

写真2 横川日吉神社



金沢市神社大観（昭和17年刊）より